



第 7 章

今後の展望



今後の展望

ツインクルプログラムは順調に平成24年度のプログラム最初の送りだしをスタートさせた。現地での反響もよく、まずまずの滑り出しであると考えている。

本年度の主な活動実施先であるインドネシア側との交渉の過程で様々な課題の提示があり、来年度の実施からはインドネシアからの学生の積極的な受け入れの実施をマッチングファンドの形で行うことを検討することとなった。また、派遣実施の過程で、連携学校との交渉など一部難航する場面や、現地で急にスケジュール変更を余儀なくされる場面もあり、さらに緊密な関係づくりを進める必要性を感じている。また、ツインクルプログラムの現地での広報活動を今まで以上に活発化し、活動拡大を推進していきたいと考えている。

さらに学生派遣時の病気・けがなどに対する緊急体制の発動の基準など具体的な対応に関してさらに検討する余地があることが示された。緊急体制に関しては全学体制のみならず海外連携校との協働体制での対応が必要になると考えられた。この点に関してもツインクルプログラムの活動内容意義を十分に学内、海外連携大学および連携学校に浸透を図り、十分な危機管理体制のもと安全で効果的なプログラム運営に努めたい。

平成25年度は今回の経験を踏まえ、プログラムをタイ、ベトナム、シンガポールに拡大し、各地の連携大学と協働して実施していくことで、平成26年度以降のロングコース実施を含むツインクルプログラム本格始動と拡充に向けて、実施準備を進める。そしてツインクルプログラムの核となる「グローバルジャパンカリキュラム」のASEAN協働化への基礎固めを行う。

